

平成 27 年度 学校経営の改革方針

三重県立上野高等学校全日制課程

I 目指す学校像（基本理念）

1 生徒が学びがいを実感する学校

- (1) 先行き不透明な時代にあって、どのように社会が変化しようと、問題を解決しながら自分の人生をたくましく切り拓いていくための知力・徳力・体力を育成する、卓越した教育を行う学校を目指します。
- (2) 自分を大切にしつつ他者の人権を尊重し、自分を律しつつ他者と共に学び、共に行動し、他者を思いやる心、奉仕の心、感動する心などの豊かな人間性を育成する、卓越した教育を行う学校を目指します。

2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校

学校情報を積極的に提供・発信するとともに、保護者・地域から理解と参画を得て学校・保護者・地域の連携協力による学校づくりを進めることにより、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保する学校を目指します。

3 教職員が働きがいを実感する学校

教職員が自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図り、生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職が集う学校を目指します。

II 現状と課題

1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」に関して

- (1) 本校の使命
本校は、旧制中学校以来 110 年を超える歴史と伝統があり、各界で活躍する多くの有為な人材を輩出してきました。現在でも、生徒、保護者、地域の人々は本校に対して、伊賀地域の伝統的な「進学校」として大きな期待を寄せており、その期待に応えていくことが本校に課せられた使命です。
- (2) 進学指導体制の強化
生徒、保護者とも 80%以上が国公立大学への進学を希望していますが、現状としては 30%程度の生徒が国公立大学に進学する状況です。生徒や保護者の希望やニーズに応えるためには、どのような学習指導や進路指導を行っていけばよいのか、その方法等を研究するとともに、進学指導体制の強化を図る必要があります。
- (3) 理数科の育成
進学指導体制の一層の充実と理数教育の充実を図るため、平成 21 年度に理数科を 1 学級設置しました。理数科として理数教育に係る様々な体験活動や独自の学習指導を行って 6 年が経過しましたが、各学年 1 学級であることや文系を希望する生徒もいることから、学校全体として理数科を育成支援するとともに、理数科を核として普通科を含めた学校全体の進学実績の向上を図る必要があります。
- (4) 生徒の多様化への対応
伊賀地域の中学生の減少に加え、名張市方面の中学生の津市内や他府県の高校への進学が増加傾向にあることから、これまで以上に多様な生徒が本校に入学してくるようになってきました。学力の幅も大きくなることを踏まえて、習熟度別学習や学力補充の機会を多く設定するとともに、多様な生徒に対してきめ細かく指導するなどして、生徒の多様な進路希望に応える必要があります。

(5) 人権教育の推進

人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指して、ホームルーム活動を中心に人権教育を実施しています。今後も、人権意識を高め、いじめや差別を見抜き、他者と協力していじめや差別をなくそうとする意欲と実践力を身に付けた生徒を育成するため、人権教育を積極的に推進する必要があります。

(6) 生徒指導の充実

ほとんどの生徒は素直で真面目によく努力し、規範意識を持って学校生活を過ごしていますが、一部の生徒に基本的な生活習慣や規範意識が十分に定着していない状況も見られます。学校や社会のルール・マナーを守り、けじめのある学校生活を送ることができるよう、生徒指導を充実する必要があります。

(7) 部活動の活性化

本校には文武両道の伝統があり、生徒や保護者も学習活動とともに部活動の充実を期待しています。「進学校」としての役割を果たす必要がありますが、同時に、運動や芸術文化活動などの部活動の充実に努め、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を推進していく必要があります。

2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」に関して

(1) 開かれた信頼される学校づくり

本校の現状や教育活動に関する情報が、保護者や中学校関係者、地域の人々に十分に伝わっていない実態があります。また、保護者や学校関係者評価委員など学校外の意見を学校経営に取り入れる取組が不十分です。今後は、授業公開をこれまで以上に推進し、本校の教育活動に関する情報をホームページや中学校訪問等によって地域社会に積極的に発信するとともに、学校関係者評価委員会及び人権教育推進協議会の一層の活性化を図るなどして学校外の意見を学校運営に積極的に取り入れていく必要があります。

3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」に関して

(1) 学校運営の継続的改善

勤務時間外に分掌業務、部活動指導業務等に従事し、恒常的な過重労働に陥っている職員や、放課後の会議等で多忙感を持つ職員が多くいます。今後は、職員間の連携・協働、効率的な学校運営等を一層促進し、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組を積極的に進める必要があります。

Ⅲ 中長期的な重点目標

以下は、上記Ⅰの「目指す学校像（基本理念）」を実現するため、「3～5年後に達成すべき状態」を重点目標として設定したものです

1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標

「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とします。

2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標

「卓越した魅力ある教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とします。

3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標

「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とします。

IV 本年度の行動計画（“上高アクションプラン 10”）

以下において、「取組状況の指標」とは、上記Ⅲの各重点目標を実現するためにどのような取組を行うのか、「達成状況の指標」とは、各取組によってどのような状況の達成を目指すのか、それぞれ指標として表したものです。

1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」の実現に向けて

◆アクションプラン1：全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図ります。	
取組状況の指標 (以下「取組状況」)	①生徒が能動的・協働的に問題解決学習、体験学習、調査学習等に取り組む「アクティブラーニング」を取り入れた授業を普通科目及び総合的な学習の時間の50%以上で実施
	②授業公開週間（研究授業・事後検討研修会を含む）を年3回実施
	③生徒による授業評価を年2回実施
	④出張等で担当教員不在となる授業の時間割変更・代替授業50%以上
達成状況の指標 (以下「達成状況」)	生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）80%以上

◆アクションプラン2：生徒が自己の進路希望を実現できるよう進学指導体制を強化します。	
取組状況	①計画的・組織的進学指導のための「進学指導シラバス」を策定・公開
	②大学出張講義、卒業生と語る会、職業体験講演会をそれぞれ1回以上開催
	③進路指導部と学年進路係による委員会を年10回以上実施
達成状況	第一希望実現生徒80%以上

◆アクションプラン3：卓越した理数科教育を推進します。	
取組状況	①成果を継承する持続可能な学科経営のための「理数科経営シラバス」を策定・公開
	②生徒が能動的・協働的に問題解決学習、体験学習、調査学習等に取り組む「アクティブラーニング」を取り入れた授業を全専門科目で実施
	③学習合宿、高大連携、大学院研究室訪問、地元企業見学等多様な校外学習の機会を確保
達成状況	生徒の授業満足度及び学習満足度各85%以上

◆アクションプラン4：人権教育を積極的に推進します。	
取組状況	①グループワークを取り入れた人権学習のLHRを全学年各学期1回以上実施
	②人権学習のLHRを各学年年1回以上公開
	③人権教育推進協議会を各学期1回開催
	④校内職員研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施
	⑤校外職員研修（フィールドワーク）を年1回以上実施
達成状況	いじめや差別等人権問題の解決に向け主体的・協働的に行動を起こす生徒の増加

◆アクションプラン5：生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進します。	
取組状況	①登校指導、着こなし指導等実効ある共通実践を年5回以上実施
	②『保健だより』を年12回以上発行
	③保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施
	④教育相談研修会を年1回以上実施
	⑤支援を必要とする生徒に関する事例検討会を関係教職員で適宜実施
達成状況	問題行動による特別指導件数年3件未満

◆アクションプラン6：図書館の広報活動を強化し、生徒・教職員による図書館活用を促進します。	
取組状況	①生徒向け『図書館だより』を年10回以上発行
	②職員向け『図書館だより』を年3回以上発行
達成状況	図書貸出者数全生徒の65%以上

2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」の実現に向けて

◆アクションプラン7：学校外の方々の意見を学校経営の改善に役立てます。	
取組状況	①学校関係者評価委員会を年2回以上開催
	②人権教育推進協議会を各学期1回開催（再掲）
達成状況	学校経営及び人権教育の改善への反映

◆アクションプラン8：学校情報を積極的に提供・発信し、広報活動を強化します。	
取組状況	①ホームページの情報量倍増
	②学校説明会（体験授業を含む）を年2回実施
	③計画的・組織的進学指導のための「進学指導シラバス」を策定・公開（再掲）
	④成果を継承する持続可能な学科経営のための「理数科経営シラバス」を策定・公開（再掲）
達成状況	入学定員を超える志願者確保

◆アクションプラン9：地域の発展に貢献します。	
取組状況	①地域の多様な主体との交流活動及び地域貢献活動の推進
達成状況	HAQUAホール（明治校舎）を活用した交流イベントを年5回以上実施 教科、部活動等で地域貢献活動に年5回以上参加

3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」の実現に向けて

◆アクションプラン10：学校運営を継続的に改善する仕組みを整備し、過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進めます。	
取組状況	①上高みらい委員会主導のオフサイトミーティングを年1回実施
	②年度末反省を早期から実施し、改善の時期・方法等を年度内に確定
	③職員満足度調査を新たに実施
	④「同僚性」の向上とモラルアップのための環境を各校内組織で工夫
	⑤学校安全衛生委員会主導により過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた具体方策を早期に決定し、努力義務として実施
達成状況	教職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した教職員70%以上